スポーツ・デジタルアーカイブ・ネットワーク構想事業 (平成 30 年度)

業務実績報告書

無断複製等禁止の標記について

委託事業に係る成果報告書の表紙裏に、次の標記を行うものとする

本報告書は、スポーツ庁のスポーツ・デジタルアーカイブ・ネットワーク構想委託事業として、凸版印刷株式会社が実施した平成30年度「スポーツ・デジタルアーカイブ・ネットワーク構想事業」の成果を取りまとめたものです。

従って,本報告書の複製,転載,引用等にはスポーツ庁の 承認手続きが必要です。

目 次

第1章	言:事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
I	趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Π	目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ш	事業の実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第2章	章 :「スポーツ・デジタルアーカイブの
	構築・共有・活用ガイドライン」の作成・・・・4
I	ガイドライン作成の目的・・・・・・・・・・・・・・・4
П	スポーツ・デジタルアーカイブの
	構築・共有・活用における課題の整理と分析・・・4
Ш	ガイドラインの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(別紙参照)
第3章	章:検証用公開システムの構築・・・・・・・・・・・・・・・7
I	検証用公開システムの構築の目的・・・・・・・・・・・・7
Π	参画する所蔵機関・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
Ш	各所蔵機関からの受領データと目録情報の整理・・・・・・・・・7
IV	目録情報のデータモデル分析・・・・・・・・・・・・・・12
V	スポーツ系資料のデジタル化について・・・・・・・・・・18
VI	検証用公開システムについて・・・・・・・・・・・・・・22
VII	スポーツ資料の利活用に向けたアンケート・・・・・・・・・27
第4章	章:「スポーツ・デジタルアーカイブの構築・共有・活用
	ガイドライン」の作成に関する検討会議の実施・・・40
Ι	会議における主な検討事項・・・・・・・・・・・・・・・・・40
П	構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
Ш	スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
別紙:	: 「スポーツ・デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」の概要

第1章:事業概要

I 趣旨

オリンピック・パラリンピック教育を通じて、国民一人一人がスポーツの価値並びにオリンピック・パラリンピックの意義に触れることは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた全国的な機運の醸成のみならず、それ以降の東京大会の有形・無形のレガシー創出に向けた極めて重要な取組となる。

「オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議」による最終報告「オリンピック・パラリンピック教育の推進について」にて、『学校教育のみならず、社会教育に関して、我が国における各博物館等において有するスポーツ・アーカイブをはじめ、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会や我が国で開催された国際競技大会等のアーカイブの構築やその利活用は、大会後もオリンピック・パラリンピック教育に継続して取り組むために重要であり、またそのための活用を促進すること』と提言されたことを受け、平成28年度及び平成29年度に「スポーツ・デジタルアーカイブ構想調査研究事業」を実施した。

平成 30 年度は、「スポーツ・デジタルアーカイブ構想調査研究事業」の成果や課題を踏まえ、スポーツ・デジタルアーカイブの構築に向けた各機関の指針となるガイドラインを有識者もまじえて検討し、貴重な資料の保存・利活用が可能となるネットワーク形成も視野にいれたスポーツ・デジタルアーカイブ構築を検討する。

Ⅱ 目的

平成 28 年度及び平成 29 年度「スポーツ・デジタルアーカイブ構想調査研究事業」の成果や課題を踏まえ、貴重なスポーツ系資料をオリンピック・パラリンピック教育等への活用を促進するため、「スポーツ・デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」を策定する。

Ⅲ 事業の実績

(1) 事業の実施期間

平成 30年4月2日~平成 31年3月22日

実施 時期	事業実績	備	考
	•平成 30 年度事業契約締結·事業計画策定·承認		
4月	•有識者委嘱依賴		
	•検討会議開催(4月16日)		
5月	・データ提供依頼(秩父宮記念スポーツ博物館,日本スポーツ		
0月	協会,札幌オリンピックミュージアム,朝日新聞社)		
C =	・データ提供依頼(フォート・キシモト)		
6月	・検証用公開システム要件定義検討		
7 🗆	•第1回WG会議開催(7月10日)		
7月	・検証用公開システム構築作業		
0 🗏	•第1回検討会議開催(8月10日)		
8月	・検証用公開システム構築作業		
0 🖪	•定例会		
9月	・検証用公開システム搭載用データの調整		
1.0 🗏	•第2回WG会議開催(10月3日)		
10月	・検証用公開システムテスト公開		
1 1 🗆	•第3回WG会議開催(11月13日)		
11月	・実証用電子化準備(秩父宮記念スポーツ博物館)		
1.0 🗏	・実証用電子化実施(秩父宮記念スポーツ博物館)		
12月	•第2回検討会議開催(12月18日)		
1月	・検証用公開システム公開		
0. 11	•第4回WG会議開催(2月6日)		
2月	・スポーツ資料の利活用に向けたアンケート実施		
о п	•第3回検討会議開催(3月8日)		
3月	・平成 30 年度成果物の作成・提出		

第2章: 「スポーツ・デジタルアーカイブの 構築・共有・活用ガイドライン」の作成

I ガイドライン作成の目的

本ガイドラインは、スポーツの価値をさらに高める取り組みに貢献し、我が国のスポーツに関する歴史的に価値のある貴重資料の散逸・劣化を防ぐことを目的に、幅広い層がスポーツ情報に触れ、スポーツへの参加意識を醸成し、活性化するための重要な要素としてのスポーツ・デジタルアーカイブ構築への指針を示す。また、貴重な資料のアーカイブ化により、スポーツ関連資料が広く二次利用することが可能となり、時間や場所を超えて多くの人が資料にアクセスすることで、スポーツ文化の国民的な共有が可能となることを目指す。

(ガイドラインの内容)

- 1.「所蔵機関」におけるスポーツ関連資料のデジタルアーカイブ化の整備・運用方法
- 2. 「スポーツアーカイブ・ネットワーク (協議体)」がスポーツ分野において推進する ネットワーク推進の役割
- 3.「利用者」が使いやすい、探しやすい「情報」の提供方法

Ⅱ スポーツ・デジタルアーカイブの

構築・共有・活用における課題の整理と分析

スポーツ・デジタルアーカイブの構築・共有・活用における課題の整理と分析について, 表1のようにまとめた。

表1【課題の整理と分析】

	論	点	意 見・方向性
0	1)検証用公開システム		
1	各機関での目録整理基準が違う ために、共通認識での分類や表	記統一などが必要ではないか。	 ●データ項目について、メタデータのベースとなるデータモデルとの関連性を明確にすること。 ●資料の「形状」や「分類」、そして「大会」ごとの略語的表記をどのように統一するかといった辞書のようなもの、いわゆる「典拠ファイル」が必要ではないか。 ●従来データを作ってきた各機関が、その作り方をいきなり変えることは期待できない。仮にガイドラインが決まってルールが徹底されることがあるとしても大変な環境整備を行う必要があると思われる。
(:	2)ガイドライン 第3章「データ整化	着」権利処理	
1	各機関が、資料の所蔵当初に受けた許諾に対して、右記の三行為が「当初の許諾の範囲」に含まれるのかどうか。		●公開無しに、デジタル化した上で保存・管理をする場合は、所蔵時に得た許諾の範囲に当然含まれていると考えられる
		② ①のサーバーへのアップ及び公開	●デジタル公開をする際には、別途許諾が必要であると考えられる。
			●テキストのコピーや画像などのダウンロードを可とする場合には、著作権者の不利益の可能性が大きく、特段の許諾が別途必要であると考えられる。

	論	点	意 見・方向性
2	目録データは、著作物であるのか		●目録は定型的情報であるため、著作物性は無いとの見解が有力。
			●一方、新聞の見出しについて著作物性を認めた判例があり、確定的な判断は難しい。
			●目録データの作成や公開については、それが著作物に該当するか否かにかかわらず、検索容易性を 高めるための軽微利用として、著作権法上認められるという整理が可能と考えられる。
3	デジタルアーカイブ化をする際に、競技者からの個別承諾が別競技者への事前承諾取得を必 途必要となるか。 特に、競技者との関係において		●実務上、競技写真がほぼ使用不可能となる可能性が高く、アーカイブの目的を果たせなくなってしまうため、厳しすぎるのではないか。
	は、著作権とは別に、パブリシ ティ権および肖像権に配慮する 必要があるのではないか。	② 対応方法(案2) ダウンロードができないように設 定する	●ダウンロードが可能だと商業利用や改変を含めての利用が可能となり、競技者への不利益が発生する可能性があるため、この対応は必要ではないか。
		③ 対応方法(案3) 画像の画素数を商業利用に堪え ない水準まで落とす	●技術的には可能であり、競技者の権利に配慮した対応となるため、妥当な対策ではないか。 ●ガイドラインへの記載は、著作権法上のサムネイルについてのルール(50平方センチ下、32,400ビウセル以下)を参考にするべきではないか。
4	非著名人においての肖像権について、個別承諾、削除要請への対応、マスキング処理などは、それぞれ必要であるか。	する必要はあるのか。	●報道機関が来ていることが常識的に考えて推察される大会に来場しているという時点で、配慮の必要性は大きくないのではないか。●観客などの写り込みに対して、事前に特段の対応は不要と考えられる。
		② 削除要請があった場合、どのような対応が必要か。	●法的義務の存否には議論があるが、運用上は削除要請があった場合には一律削除することが望ましいのではないか。●被写体から削除要請があった場合には、一律に削除するという対応が望ましい。
		③ 公開に際し、マスキング等の事前処置は必要か。	●一般的にスポーツイベントにおける写真等への写り込みは、類型的な被写体への侵害が無く(又は小さく)、その一方で、マスキング処理はアーカイブの趣旨自体を失わせる可能性がある。●観客などの写り込みに対して、マスキング処理等の事前処置は不要と考えられる。
5	教育目的の利用について、改正 著作権法上、どのような整理が なされたのか。		●H30年度著作権法改正において、教育目的利用であるならば幅広い緩和がなされたとの誤解が教育 現場に生じやすいため、ガイドラインにおいて注意喚起しておくべきではないか。
		② 本改正で、実際に緩和された 内容は何か。	●教室内、及び遠隔授業に於ける複製等についてのみ、利用が緩和された。
		③ 教育現場などで、どのような 誤解を防止する必要があるか。	●教育目的であっても著作物の複製や頒布(SNSへのアップ等)が広く認められた訳ではないことを注意 喚起する記述が必要だと思われる。
6	目録のテキストデータの利用につ あった方が良いか。	いて、「所蔵機関同士の許諾」は	●目録を作成する所蔵機関においては、あらかじめ外部に公開可能な範囲を定めたうえで、所蔵機関同士の相互許諾や目録データの集約版を提供する機関等に当該目録の包括的な利用を認める旨表明させるようなルール作りをしておくことが望ましい。
7	目録へのサムネイルの表示可否	について	●画素数を落としたもので、かつ目録に対するサマリー的な掲載であったとしても、一定の許諾を必要と する運用としておくことが安全である。
8	サムネイルの重要性について		●画像のサムネイルを含めることが、利用者にとっての利便性に大きく影響を与え、また、一般利用者へのダウンロード等を認めない方法であれば、著作権者に対する権利侵害の度合いは類型的に大きくないとも考えられる。 ●適切なサムネイル利用を可能とする範囲を明確化するためのさらなる議論の進展が望まれる。
9	サムネイルの公開について今後- ないか。	も前向きな検討を進めるべきでは	●サムネイル画像のスポーツ・デジタルアーカイブにおける有用性の大きさに鑑み、著作権者の権利に も配慮した形で、適切にサムネイル利用を推進するためのルールの検討が必要となると考えられる。
(2)ガイドライン 第4章「データの?	冷悶と生 者(
_	スポーツ・デジタルアーカイブ構築 かるうえでの、スポーツ資料特有	Eによるデータの公開と共有をは	●スポーツに関する資料をどこでどう探せば使用可能な資料に出会えるかということを明確にすることが重要ではないか。 ●本ガイドラインでは、スポーツ資料に特有の実物資料への理解、そして利活用する側への注意喚起や利用についてよりポジティブにとらえるような内容が盛り込めればよい。
			 ●スポーツ資料の所在情報(目録情報)が公開・共有され、資料を活用しやすくすることで利活用が広がり、スポーツ文化や教育の意識醸成へとつながる可能性がある。 ●本ガイドラインでは、デジタル化された貴重な実物資料や個人保有の資料などが、散逸・劣化しないよう留意する必要がある。
2	構築されたスポーツ・デジタルア データを利活用する上での課題	一カイブにおいて公開・共有された	●利活用にあたって、ストーリーが資料とエンドユーザーをつなぐことに大きな役割を果たすと考えられるため、資料とストーリーをどう結び付けるかは重要である。そのコミュニティへの視点をガイドラインに入れられるかどうか。 ●スポーツは、パフォーマンスなので、無形文化財と類似する。 どういう文脈で貴重なのか、何に感銘できるのか、など、パフォーマンスを行うための「物」は収集され資料となるが、この「物」は、イベントや人と結びついて初めて意味を持つ。そのために写真や文章で「説明」を残しておき、「物」と結んでおく必要がある。

	論 点	意 見・方向性
(4) ガイドライン 第5章「スポーツ・デジタルアーカイブ・ネットワーク	けについて」
1	ネットワークの範囲について	●スポーツ資料は民間保有(個人含む)も多いためそこまでネットワークの範囲を広げて考えるべきか悩むが、個人保有、特に選手やその遺族、研究者、資料蒐集家などが持つ所在情報をきちんと把握するしくみを構築することも重要である。
2	アーカイブ構築した後のアップデートについて	●スポーツ・デジタルアーカイブの構築やその後のアップデート、運用にあたっては、各主体の連携が不可欠であり、そのためには民間セクターの適切な努力に加え、公共セクターによる積極的な支援が望まれる。
3	中核拠点と各所蔵機関、民間、個人を包括するしくみについて	 ●民間を巻き込む「登録制度」の体制を構築することが望まれる。 ●利用者も含めたスポーツ・デジタルアーカイブ・ネットワークを形成することで、スポーツに関する情報の共有・活用が促進され、文化としてのスポーツという意識を醸成するために有効であると考えられる。
4	知見・情報が蓄積される仕組みについて	 ●人のネットワークができるか否かが重要であり、ボトムアップ、トップダウン、両方ケースがある。 トップダウン型 → 中核拠点中心にとして体制構築 ボトムアップ型 → 所蔵機関のキュレーターや研究者といった実務者のネットワーク構築
5	目録のなかでも、公開される情報・公開されない情報があることを 記載するべきではないか。	●利用目的を明確(届出)にして、管理者権限で公開・非公開(もしくは利用許諾)の手続きや寄贈者等への問合せ対応を行う運用ルールにすべきではないか。
6	近年スピードアップしている技術革新への対応について	●近年、発展が目覚ましい先端技術を踏まえ、データ連携の重要性はますます増していくと考えられ、 技術革新に対応したルール等の策定を進めることが望まれる。
7	資料の保存・整理する人材育成、キュレーター養成について言及しておくべきではないか。	●スポーツに関する知識や権利に関する理解を有し、「デジタルアーカイブ構築」が実践できる人材(キュレーター等)の育成も並行して進める必要がある。
8	人と人のネットワークと人材育成について	●所蔵機関を繋いていく仕組みを作るためには各所蔵機関に収集対象の実態についての共通理解を得ることが必要であり、その共通理解をベースにその組織・施設ごとの目録を作成し運用していくための用語統制なを整備する必要である。 ●スポーツに関する知識、法的理解、デジタルアーカイブ構築の経験などを備えたキュレーター(学芸員)等の人材が必要なため、その育成も含めた人的な取り組みも重要な要素のひとつである。
9	「必要とされる人材」について	●スポーツに関する知見、アーカイブシステムに関する知見、権利処理等に関する理解など総合的であるため、必要とされる人材については、まとまった節を新設した方がいいのではないか。
(5	 スポーツ・デジタルアーカイブの利活用について	
1	スポーツ・デジタルアーカイブの利活用として、ケーススタディの実証を行う。 ワーグショップ(テーマ設定、資料の範囲、参加者、ファシリテーター、スケジュールなど)の開催準備についてWGの中で検討しながら進行する。	●利活用という面からみたとき、背後のストーリーを説明する資料を作ることができれば、利活用もしやすくなるだろう。 ●フーグショップを行う際には、一番いいのは当事者がそこに居て、コンテクストがその場で出てくる状態で、それを収録してアーカイブすることが必要。また、参加した人や学びがあった人の感想が、同様に収録されるといい。 ●テーマ案は、「スポーツと社会を切り結んだ〈記憶〉の生成」 ●「検証用公開システム」のデータから64年東京大会、72年札幌大会に関する資料を中心に選定。

Ⅲ ガイドラインの概要

• 別紙参照

第3章:検証用公開システムの構築

I 検証用公開システムの構築の目的

平成29年度に検討してきた「スポーツ・デジタルアーカイブ構想」にもとづき,実際にスポーツ系資料を所蔵している機関が連携し,各機関が保有する情報が検索・閲覧できる仮想環境「検証用公開システム」を提供し,連携における課題や資料の活用手法等を検証した。

Ⅱ 参画する所蔵機関

オリンピック・パラリンピックに関するスポーツ系資料を多く所有・所蔵している機関を選定し、一般のインターネット・ユーザーが検索できる検証用公開システムを構築した。 また、選定機関以外の機関もなるべく多く参加できる機能を有するシステムとした。

1. 対象機関

- ・札幌オリンピックミュージアム
- 中京大学
- ・日本スポーツ協会
- ・フォート・キシモト
- ・秩父宮記念スポーツ博物館・図書館

Ⅲ 各所蔵機関からの受領データと目録情報の整理

スポーツ系資料が多くの人々に利活用されるためには、公開する際に求める資料に容易にたどりつけ、かつ利用できるようにする必要がある。しかし、現在スポーツ系資料の収集対象実体に対し、所蔵機関ごとに管理されている項目はたいへん多種多様であり、このまま横並びにデータを並べても資料にたどりつくまでに遠回りや不足が生じることが予想される。

したがって、本事業においては、検証用公開システムに登録するデータとして、所蔵機関が保有する現状の資料情報を最大限尊重した統合データを基本としつつ、非収集対象となる「共有項目」のいくつかについて実験的に設定した。将来の利活用の促進に対する課題抽出の先行検証を本事業の関係者に限定して実施し、将来に役立つデータの在り方を検討することとした。

1. 各所蔵機関からの受領データ

以下に各所蔵機関から受領したデータを記す。

①札幌オリンピックミュージアム

札幌オリンピックを中心とした冬季大会に関する資料, 記念品, スポーツ用具等の所蔵 情報

- 1) 受領した目録のレコード数: 14,185 レコード ※うち596 レコードは、資料名の記載なしや数量が0だったため、対象外とした
- 2) 受領した画像データ数:8,710ファイル
- 3) 目録情報:表2の通り

表2【札幌オリンピックミュージアムの目録情報】

No.	項目名	No.	項目名
1	整理No	12	カテゴリ中分類
2	資料名	13	カテゴリ小分類
3	数量	14	カテゴリ細分類
4	形状	15	製造メーカー(出版社)
5	製造年(発行年)西暦	16	選手名
6	製造年(発行年)和暦	17	寄贈者名
7	特徴	18	所蔵区分
8	ビンディングの種類(スキーのみ)	19	大会名
9	著者	20	所蔵棚番号•展示場所
10	ライブラリー番号	21	画像ファイル名
11	カテゴリ大分類	22	備考

②中京大学

中京大学スポーツミュージアム開設に向けて収集された資料の一部および札幌オリンピックに関するアルバムの所蔵情報

- 1) 受領した目録のレコード数:678 レコード
- 2) 受領した画像データ数:845ファイル
- 3) 目録情報:表3の通り

表 3【中京大学の目録情報】

No.	項目名	No.	項目名
140.	것다1	140.	것다기
1	整理番号	6	説明2
2	資料名称	7	説明3
3	寸法	8	説明4
4	分類	9	画像番号R
5	説明1		

③日本スポーツ協会

医・科学研究報告書の PDF データ情報

1) 受領した目録のレコード数:546 レコード

2) 受領した画像データ数: 257 ファイル

3) 目録情報:表4の通り

表4【日本スポーツ協会の目録情報】

No.	項目名	No.	項目名
1	年度(元号)	5	概略
2	年度(西暦)	6	PDF
3	書籍コード	7	在庫
4	タイトル	8	目次

④フォート・キシモト

オリンピック・パラリンピック、およびサッカーに関連する画像データ情報

1) 受領した目録のレコード数:155 レコード

2) 受領した画像データ数:155ファイル

3) 目録情報:表5の通り

表5【フォート・キシモトの目録情報】

No.	項目名	No.	項目名
1	ID	9	関連競技名
2	表題・タイトル・資料名	10	関連団体名
3	形状	11	内容
4	撮影年月日	12	保有者
5	著作権者	13	保有者管理番号
6	関連選手名等	14	権利関係
7	関連イベント名	15	備考
8	撮影場所	16	画像ファイル名

⑤秩父宮記念スポーツ博物館・図書館

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館で管理している資料のうち、寄贈として受け入れた 資料の所蔵情報

1) 受領した目録のレコード数: 27,112 レコード

2) 受領した画像データ数:7,483ファイル

3) 目録情報:表6の通り

表 6【秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の目録情報】

No.	項目名	No.	項目名	No.	項目名
1	資料番号	18	行事2	35	受入西暦
2	資料名	19	使用年代	36	受入年月日
3	資料名2	20	試合	37	受入先名
4	分類	21	個人	38	関係者リスト表記 受入先名
5	実物 種別1	22	団体	39	ポスター番号
6	実物 種別2	23	場所	40	箱番号
7	実物 形態	24	材質	41	アイウ番号
8	情報 種別1	25	形状	42	6桁番号
9	情報 種別2	26	付属品	43	ヤマト番号
10	情報 形態	27	サイン・印章・銘記	44	画像番号(箱-ファイル-切分)
11	用途1	28	その他 キーワード	45	中京番号
12	用途2	29	台帳備考	46	凸版番号
13	生産 生産者	30	員数(オリジナル)	47	ナカシャ番号
14	生産 年	31	員数	48	ナカシャ備考
15	競技	32	単位	49	注記
16	種目	33	点数		
17	行事	34	受入区分		

2. 目録情報の整理

検証用公開システムで管理する目録情報を以下に記す。

表7【検証用公開システムの目録情報】

	項目名		項目名
1	資料ID	14	オリンピック・パラリンピック(回数、開催地)※
2	表題・タイトル・資料名	15	場所
3	資料名付記	16	関連競技名
4	形状※	17	関連競技名(種目)※
5	サイズ	18	関連団体名
6	スポーツ資料分類※	19	生産者
7	所蔵館分類	20	概要
8	製造·作成·出版·発行年月日	21	所蔵館·保有者
9	製造·作成·出版·発行年※	22	所蔵館·保有者独自管理番号
10	著者名•製作者名	23	権利関係
11	関連選手名	24	備考
12	関連イベント名	25	画像ファイル名
13	オリンピック・パラリンピック競技大会※	×	:実証用にデータ加工している項目

表 2~6 のように各所蔵機関で目録情報の項目が異なるため、データの内容を確認しなが ら共通項目の策定を行った。また、同じ所蔵機関でも目録を作成した時期や入力者によっ て記載内容が異なる場合があり、典拠ファイルの作成に苦慮した。

各所蔵機関サンプルデータは別添とする。

Ⅳ 目録情報のデータモデル分析

スポーツ資料が多くの人々に利活用されるためには、公開する際に、求める資料に容易にたどりつけ、かつ利用できるようにする必要がある。しかし、現在スポーツ資料の収集対象実体に対し、所蔵機関ごとに管理されている項目は、たいへん多種多様であり、このまま横並びにデータを並べても、資料にたどりつくまでに遠回りや不足が生じることが予想される。

したがって、本実証事業においては、検証システムに登録するデータとして、所蔵機関が保有する現状の資料情報を最大限尊重した統合データを基本としつつ、非収集対象となる「共有項目」のいくつかについて実験的に設定し、将来の利活用の促進に対する課題抽出の先行検証を行うことで、将来に役立つデータの在り方を検討することとした。



1. スポーツ資料の「分類」の考え方

多種多様な位置づけがあるスポーツ資料については、形状と分類を分離した。

- ・「形状」・・・見た目でわかる区分
- ・「分類」・・・図書館分類等を参考とした中分類

上記位置づけにて、資料ごとに値を仮付与することとする。また、分類については、 単独とするか、複数またぐ場合を許諾するかの判断がある。

- ・単独のみの場合 優先順位付けが必須となり,該当分類が含まれないケースが発生する。
- ・複数の分類を許す場合 分類が多数にまたがるケースが発生し、何が最も端的にあらわされた分類である かの混乱が発生するケースがある。
- ※本事業においては、まずは、分類=単独と仮置きし、 資料ごとに該当する「形状」と 「分類」を付与したデータに置き換えて課題を検証した

2. 検証実体①「形状」の典拠ファイル(案)

「形状」の項目は以下5項目と仮設定。

- 1. 実物資料
- 2. 記録資料(紙資料)
- 3. 電磁記録媒体 (CD, DVD, テープ, レコード等)
- 4. デジタルコンテンツ
- 5. その他

表8【検証実体①「形状」の典拠ファイル(案)】

No.	形状	資料内容
1	実物資料	ユニフォーム、スキー板、チラシ、ポスター、パネル、記念品、グッズ、 感謝状、礼状、委任状、封筒、賞状、電報、招待状、入場券、チケット、 通行許可書、領収書
2	記録資料 (紙資料)	図書、雑誌、記録誌、広報誌、会報、〇〇ニュース、名簿、プログラム、 設計図、地図、写真(紙)、アルバム、ネガ 等
3	電磁記録媒体 (CD,DVD,テープ,レコード等)	CD、DVD、テープ、レコード、ビデオテープ、映像フィルム 等
4	デジタルコンテンツ	デジタルデータ
5	その他	

3. 検証実体②「分類」の典拠ファイル(案)

「分類」を下記9項目と仮設定し、優先順位を1から順に区分した。

- 1. スポーツ用品・用具
- 2. 図書・雑誌・新聞
- 3. 文書
- 4. 写真
- 5. 映像
- 6. 音声·音響
- 7. 競技会関連グッズ
- 8. 資料目録
- 9. その他

表9【検証実体②「分類」の典拠ファイル(案)】

No.	大分類	資料内容				
IVO.	八八块					
1	スポーツ用品・用具	く定義 スポーツ実施道具に限らず、スポーツ活動時に着ていたウェアや靴、帽子等も「道具」に含むものとする。 ただし、スポーツ実行時以外の儀礼的なウェア類は含まない。				
		<例> 〇〇選手が〇〇オリンピックで使ったスケート靴				
2	図書∙雑誌∙新聞	<例> 札幌オリンピックの記録を特集した雑誌、大会の写真集(出版物)				
3	文書					
		<定義> ネガやフイルム、アルバムも「写真」に含むものとする。ただし写真集(出版物)は含まない。				
4	写真	<例> ○○選手が、○○大会で優勝した瞬間をとらえた写真、○○選手の色々な写真を100枚入れたアルバム、 写真のネガ、大会後に写真付きパネルとして展示されたパネル				
5	映像	<例> ○○大会の閉会式を映したビデオ				
6	音声•音響	<例> 〇〇大会の入場行進音楽				
		〈定義〉 その会場で使われていた備品やプログラム、与えられたメダルや賞状に限らず、売店で一般販売されている記念品や、事前事後に、その大会広告が掲載されている雑誌や菓子の限定パッケージ、大会後に開催された展示会での写真パネルなども含む。				
7	競技会関連グッズ	<例>○○大会の開催プログラムや入場チケット、委嘱状、賞状、○○大会の際に展示されていたパネル(大会名が不明のケースを含む)大会会場で飾られていた札幌の雪まつりの写真パネル、大会終了後に作成され、その後、記録としてイベントで一時的に展示された写真パネル、大会時に売店で販売されていた、大会名が印字されているアイスホッケーのパック、絵葉書、メダル、ピンバッチ、ハットピン、ネクタイバッチ等の備品(どの大会で使用されたものかは不明)				
8	資料目録	<例> 博物館保管品目録 図書館蔵書目録ファイル				
9	その他	⟨例⟩ ○○のサイン色紙 大倉山ジャンプ競技場からの夜景写真 札幌市長からスキー協会への感謝状				

表 10【形状とスポーツ分類の組み合わせによる代表 (例)】

スポーツ 形状 分類	実物資料	記録資料 (紙資料)	電磁記録 媒体	デジタル コンテンツ	その他
①スポーツ 用品・用具	·競技用資材 ·競技用衣装	Δ	Δ	Δ	Δ
②図書·雑誌· 新聞	Δ	出版物、写真集・パンフレット	電子出版物 (格納メディア)	電子出版物	Δ
③文書	図面パネル	·公式日程表 ·議事録、報告書、 要綱、地図、図面	文書データ格納 メディア	文書データ	Δ
④写真	写真パネル	・紙写真、アルバム ・ネガ	写真データ格納 メディア	写真データ	Δ
⑤映像	Δ	Δ	録画ビデオ、テー プ、DVD	録画データ	Δ
⑥音声•音響	Δ	Δ	音声記録メディ ア	録音データ	Δ
⑦競技会関連グッズ	トロフィー、賞状・選手団衣装・入場券・ポプター・記念品(ロゴ人)	・大会関連カタログ・大会マーク図案	・印刷物データ 格納メディア・モーションデータ格 納メディア	・Webページ ・Webチラシ ・モーションデータ	Δ
8資料目録	Δ	所蔵品目録	目録データ格納 メディア	目録データ	Δ
9その他	・選手サイン色紙 ・委託状、感謝状	不明文書	内容不明メディ ア	Δ	Δ

△:該当なし(今後該当する資料が発生することが想定される)

「所蔵館分類」は各所蔵機関から受領した目録に記載されている内容のままを記述する ものとし、表 11 の 171 種類が抽出された。

表 11【「所蔵館分類」の典拠ファイル(案)】

No.	所蔵館分類	No.	所蔵館分類	No.	所蔵館分類
	CD·CD-R		プロダウト/クロージング [*]	_	事典•辞典
	DVD		プロダクト/衣類		時計
3	アイスコンパス		プロダクト/印刷物/プログラム		写真
4	アルバム	64	プロダクト/用品/バッシ゛	124	写真パネル
	カード類		プロダクト/用品/メダル	125	写真集
	ガイドシート		ペナント		手帳
	ガイドブック(ハンドブック・パンフレット)		ヘルメット		祝電
	カレンダー		ベンド	128	
	キーホルダー		ポスター		書籍
	グローブ		ボブスレー		商品カタログ
	ケース ゲートル		マウスパッドマスコット		招待状 賞状
	ゴーグル		マッチ		乗車券・証
	コーノル コースター		マネキン		色紙
	コート		メダル		新聞
	ゴール		ユニホーム		図書/本
	シール		ライター		水差し
	しおり		ラベル		設計図
19	シューズ	79	リュージュ	139	装備
	スキーケース	80	ルールブック	140	台本
21	スキーバンド		レコード		地図
	スキー板		ワックス		彫像
	スクラップブック		ワッペン		電話帳
	スケート		案内状		日程・プログラム
	スケルトン		委嘱状		入場証
	スタンプ		<u>衣類(ユニホーム以外)</u>	146	
	スティック ステッカー		<u>運搬具</u> 映像フィルム		標本
	ストーン		野家フィルム 鉛筆	149	
	ストック		温度計		浮世絵
	スノーボード		会報		封筒
	ゼッケン		灰皿		文書(資料)
	その他		絵はがき(ポストカード)		文書類(ベント)
34	タイル		楽譜		文書類(イベント)/運営資料
35	タグ	95	感謝状	155	文書類(ベント)/概要書
36	たすき	96	看板	156	文書類(イベント)/競技資料
	タペストリー		缶系		文書類(イベント)/報告書
	チケット		観光案内ブック		文書類/概要書
	テーブルクロス		寄せ書き		壁掛
	├ ─ <i>₹</i>	100			報告書
	トランクケース		<u>旗門</u>		報道(CM)用ビデオテープ
	トロフィー・カップ・盾 ネガ		規則・計画 記念グッズ		帽子 防具
	ネクタイ		記念伊貨	164	
	ネクタイピン		記念誌		名簿
	ネックレス・ペンダント		記念切手		木槌
	ノート(メモ)		記念品		領収書·請求書
	のぼり		記録・成績	168	礼状
49	バイザー		疑似体験	169	録音テープ(フィルム)
	パック		空き	170	腕章
	バッジ	111	掲示坂	171	橇(そり)
	パネル		憲章	_	
	ハンカチ・ナプキン		研究報告		
	ピッケル		研磨剤		
	ビデオテープ	115			
	ファイル		広告・チラシ		
	ブーツ		広告ニュース		
58	<u>ブラシ</u> プレート		<u>広報</u> 座布団		
98	プログラト/キャア		<u>陸</u> 布団 市販ビデオソフトテープ		
00	ノロンバイナ	120	11		

4. 検証実体③「大会」の典拠ファイル(案)

オリンピック・パラリンピック大会のみ大会名を表記統一し、下記 97 種類を仮設定。

表 12【検証実体③「大会」の典拠ファイル(案)】

明末ノジントク(上人々佐)	参考	
関連イベント名(大会名等)	開催地	開催国
第1回オリンピック競技大会(アテネ)第2回オリンピック競技大会(パリ)	アテネ パリ	ギリシャ フランス
第3回オリンピック競技大会(セントルイス)	セントルイス	アメリカ
54回オリンピック競技大会(ロンドン)	ロンドン	イギリス
55回オリンピック競技大会(ストックホルム) 56回オリンピック競技大会(ベルリン)	ストックホルム ベルリン	スウェーデン ドイツ
701 アンドル (アントワープ)	アントワープ	ベルギー
[8回オリンピック競技大会(パリ)	パリ	フランス
9回オリンピック競技大会(アムステルダム) [10回オリンピック競技大会(ロサンゼルス)	アムステルダム ロサンゼルス	オランダ アメリカ
11回オリンピック競技大会(ベルリン)	ベルリン	ドイツ
12回オリンピック競技大会(東京(返上))	東京(返上)	日本
i12回オリンピック競技大会(ヘルシンキ(中止)) i13回オリンピック競技大会(ロンドン)	ヘルシンキ(中止) ロンドン	フィンランド イギリス
14回オリンピック競技大会(ロンドン)	ロンドン	イギリス
15回オリンピック競技大会(ヘルシンキ)	ヘルシンキ	フィンランド
16回オリンピック競技大会(メルボルン) 16回オリンピック競技大会(ストックホルム(馬術競技のみ))	メルボルン ストックホルム(馬術競技のみ)	オーストラリア スウェーデン
17回オリンピック競技大会(ローマ)	ローマ	イタリア
18回オリンピック競技大会(東京)	東京	日本
19回オリンピック競技大会(メキシコシティー) 20回オリンピック競技大会(ミュンヘン)	メキシコシティー ミュンヘン	メキシコ 西ドイツ
21回オリンピック競技大会(モントリオール)	モントリオール	カナダ
22回オリンピック競技大会(モスクワ)	モスクワ	ソ連
23回オリンピック競技大会(ロサンゼルス) 24回オリンピック競技大会(ソウル)	ロサンゼルス ソウル	アメリカ 韓国
24回オリンピック競技大会(ブリル) 25回オリンピック競技大会(バルセロナ)	バルセロナ	料国スペイン
26回オリンピック競技大会(アトランタ)	アトランタ	アメリカ
27回オリンピック競技大会(シドニー) 28回オリンピック競技大会(アテネ)	シドニー アテネ	オーストラリア ギリシャ
28回オリンピック競技大会(アテイ) 29回オリンピック競技大会(北京)	北京	中国
30回オリンピック競技大会(ロンドン)	ロンドン	イギリス
31回オリンピック競技大会(リオデジャネイロ)	リオデジャネイロ	ブラジル
32回オリンピック競技大会(東京) 33回オリンピック競技大会(パリ)	<u>東京</u> パリ	日本フランス
34回オリンピック競技大会(ロサンゼルス)	ロサンゼルス	アメリカ
1回オリンピック冬季競技大会(シャモニー・モンブラン)	シャモニー・モンブラン	フランス
2回オリンピック冬季競技大会(サン・モリッツ) 3回オリンピック冬季競技大会(レークブラシッド)	サン・モリッツ レークプラシッド	スイスアメリカ
3回オリンピック冬季競技大会(ガルミッシュ・パルテンキルヘン)	ガルミッシュ・パルテンキルヘン	ドイツ
5回オリンピック冬季競技大会(札幌(返上))	札幌(返上)	日本
5回オリンピック冬季競技大会(サン・モリッツ(返上/中止)) 5回オリンピック冬季競技大会(ガルミッシュ=パルテンキルヒェン(中止))	サン・モリッツ(返上/中止) ガルミッシュ=パルテンキルヒェン(中止)	スイス ドイツ
5回オリンピック冬季競技大会(カルミックユーバル・ブンギルビエン(中正)) 5回オリンピック冬季競技大会(コルティーナ・ダンペッツォ(中止))	コルティーナ・ダンペッツォ(中止)	イタリア
5回オリンピック冬季競技大会(サン・モリッツ)	サン・モリッツ	スイス
6回オリンピック冬季競技大会(オスロ)	オスロ	ノルウェー
7回オリンピック冬季競技大会(コルチナ・ダンペッツオ) 8回オリンピック冬季競技大会(スコーバレー)	コルチナ・ダンペッツオ スコーバレー	イタリア アメリカ
9回オリンピック冬季競技大会(インスブルック)	インスブルック	オーストリア
10回オリンピック冬季競技大会(グルノーブル)	グルノーブル	フランス
11回オリンピック冬季競技大会(札幌) 12回オリンピック冬季競技大会(デンバー(返上))	札幌 デンバー(返上)	日本アメリカ
12回オリンピック冬季競技大会(インスブルック)	インスブルック	オーストリア
13回オリンピック冬季競技大会(レークプラシッド)	レークプラシッド	アメリカ
14回オリンピック冬季競技大会(サラエボ)	サラエボ	ユーゴスラビア
15回オリンピック冬季競技大会(カルガリー) 16回オリンピック冬季競技大会(アルベールビル)	カルガリー アルベールビル	カナダ フランス
17回オリンピック冬季競技大会(リレハンメル)	リレハンメル	ノルウェー
18回オリンピック冬季競技大会(長野)	長野	日本
19回オリンピック冬季競技大会(ソルトレークシティ) 20回オリンピック冬季競技大会(トリノ)	ソルトレークシティ トリノ	アメリカ イタリア
21回オリンピック冬季競技大会(バンクーバー)	バンクーバー	カナダ
22回オリンピック冬季競技大会(ソチ)	ソチ	ロシア
23回オリンピック冬季競技大会(平昌) 24回オリンピック冬季競技大会(北京)	平昌 北京	韓国 中国
24回オランピックを学説技入会(北京) 1回パラリンピック競技大会(ローマ)	ローマ	イタリア
2回パラリンピック競技大会(東京)	東京	日本
3回パラリンピック競技大会(テルアビブ) 4回パラリンピック競技大会(ハイデルベルク)	テルアビブ	イスラエル 西ドイツ
4回ハラリンピック競技大会(ハイデルベルク) 5回パラリンピック競技大会(トロント)	ハイデルベルク トロント	カナダ
6回パラリンピック競技大会(アーネム)	アーネム	オランダ
7回パラリンピック競技大会(ニューヨーク)	ニューヨーク	アメリカ
7回パラリンピック競技大会(アレイスベリー) 8回パラリンピック競技大会(ソウル)	アレイスベリー ソウル	イギリス 韓国
9回パラリンピック競技大会(バルセロナ)	バルセロナ	スペイン
10回パラリンピック競技大会(アトランタ)	アトランタ	アメリカ
11回パラリンピック競技大会(シドニー) 12回パラリンピック競技大会(アテネ)	シドニー アテネ	オーストラリア ギリシャ
13回パラリンピック競技大会(北京)	北京	中国
14回パラリンピック競技大会(ロンドン)	ロンドン	イギリス
15回パラリンピック競技大会(リオデジャネイロ) 16回パラリンピック競技大会(東京)	リオデジャネイロ 東京	ブラジル 日本
10回パラリンピック競技大会(ポポ) 17回パラリンピック競技大会(パリ)	パリ	フランス
18回パラリンピック競技大会(ロサンゼルス)	ロサンゼルス	アメリカ
1回パラリンピック冬季競技大会(エーンシェルドスピーク) 2回パラリンピック冬季競技大会(ヤイロ)	エーンシェルドスピーク ヤイロ	スウェーデン ノルウェー
2回パラリンピック冬季競技大会(ヤイロ) 3回パラリンピック冬季競技大会(インスブルック)	インスブルック	オーストリア
4回パラリンピック冬季競技大会(インスブルック)	インスブルック	オーストリア
5回パラリンピック冬季競技大会(アルベールビル)	アルベールビル	フランス
6回パラリンピック冬季競技大会(リレハンメル) 7回パラリンピック冬季競技大会(長野)	リレハンメル 長野	ノルウェー 日本
7回ハラリンピックを学規技人会(長野) 8回パラリンピック冬季競技大会(ソルトレークシティ)	ソルトレークシティ	アメリカ
9回パラリンピック冬季競技大会(トリノ)	トリノ	イタリア
10回パラリンピック冬季競技大会(バンクーバー) 11回パラリンピック冬季競技大会(ソチ)	バンクーバー ソチ	カナダ
11回ハラリンピック冬季競技大会(ソナ) 12回パラリンピック冬季競技大会(平昌)		韓国
	北京	中国

V スポーツ系資料のデジタル化について

1. 作業の目的

「データ整備」における課題を,実際に秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の未整備のスポーツ系資料を利用し,デジタル化および目録(管理)情報を作成する工程を検証した。

2. 作業内容

スポーツ系資料の選定,搬出,デジタル化,目録作成および納品データ作成について, 工程毎の課題点に留意して実施した。

①資料選定

- 1)対象機関 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館
- 2) 対象資料

学芸員による未整理の貴重資料の選定

・1964年のオリンピック東京大会を中心とした貴重なポスター 130枚







図1【ポスター】

・1964年のオリンピック東京大会を中心とした貴重なアルバム (写真) 1,665枚













図2【アルバム (写真)】

②資料搬出

資料のサイズが大きく、また、貴重資料であることから、資料を傷めずに搬出する配慮 として大判専用の中性紙箱を用意した。



図3【資料梱包】

③デジタル化

ポスターとアルバム(写真)ではサイズや形状が異なり、劣化している資料や貴重資料を傷めない配慮をして、各資料に最適なスキャナーを選定しデジタル化を行った。

1) ポスター

大判サイズであることから、A0サイズまで1カットでスキャニング可能なスキャナーを選定した。筒状に丸められているポスターについては、細心の注意を払い2名体制で開きつつ、同時に元に戻らないようマットで押さえながらスキャニングを実施した。

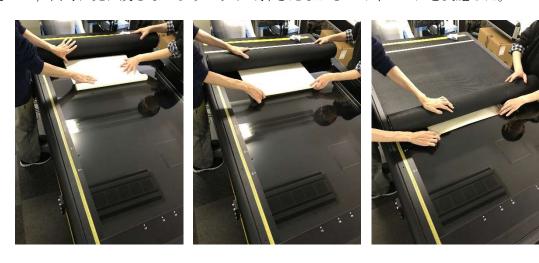
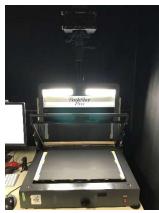


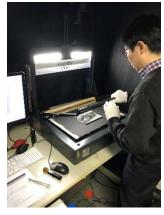
図4【ポスターのスキャニング方法】

2) アルバム (写真)

図2のようにさまざまな保管状態の資料があり、アルバムから取り外せない写真も存在 したため、資料を裏返すことなく上向きの状態でスキャンが行えるオーバーヘッド型のブックスキャナーを選定した。







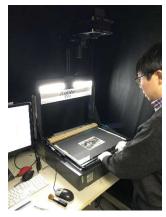




図5【アルバム(写真)のスキャニング方法】

④目録作成

対象資料と同時に受領した管理リストに対して、目録情報の対象となるユニーク番号や キャプション(下図赤枠)をテキスト化し付与した。



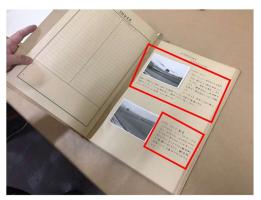


図6【テキスト化対象箇所】

テキスト化を行う際は、資料保全の観点から資料に直接触れる回数を極力抑えるため、 スキャニングで取得した画像データを閲覧しながらパンチ入力を実施した。

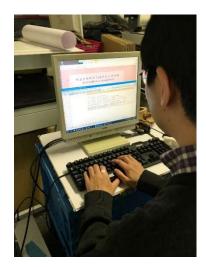


図7【入力作業風景】

⑤納品データ作成

デジタル化および目録(管理)情報の作成において,以下のように行った。

- 1) メタデータの作成においては可能な範囲で「スポーツ共通メタ項目」に合わせた入力を行った。
- 2) 画像データの作成においては可能な範囲で以下のような使用に合わせて作成した。 作成する画像データは次の3種類,(1)保存用画像,(2)提供用画像,(3)サムネイル 画像

(1)保存用画像

将来の利用や保存のために作成する画像で、原資料から作成する最大サイズの画像。非圧縮で作成し、画像フォーマットはTIFF形式、画像解像度は原資料に対して400dpiとした。

(2)提供用画像

提供用に作成する画像で、画像の内容をおおむね把握でき、多くの画像をブラウジングしても利用者がストレスを感じないサイズとした。画像フォーマットは、 JPG 形式とし、画像解像度は原資料に対して 400dpi でスキャンした保存用画像を圧縮して作成した。

VI 検証用公開システムについて

1. システム運用関係者

①事業主管部署 : スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック課

②システム管理者:事業事務局(凸版印刷株式会社)

③データ提供機関:札幌オリンピックミュージアム、中京大学、日本スポーツ協会、

フォート・キシモト、秩父宮記念スポーツ博物館・図書館

2. 対象とするデータ

①所蔵情報(目録データ)…テキストデータ,エクセルデータ等

②所蔵資料データ …現物資料の撮影画像データ,文書資料のPDF データ等

※①・②とも、公開可能なデータのみご提供

3. データ登録件数

検証用公開システムのデータ登録件数は下記の通り。

表 13【検証用公開システムのデータ登録件数】

所蔵機関名	所蔵情報(件)	画像(点)
① 秩父宮記念スポーツ博物館	27,112	5,544
② 札幌オリンピックミュージアム	13,616	8,710
③ 中京大学	678	841
④ 日本スポーツ協会	546	257
⑤ フォート・キシモト	155	155
合計	42,107	15,507

4. データの所有権

①データの所有権は、各データ提供機関とする。

5. データの公開条件

- ①インターネットによる「本事業関係者のみの限定公開」とした。 利用者は、パソコン、スマホのブラウザを利用して資料の検索、閲覧が可能。
- ②アクセス制限方法…関係者のみ ID とパスワードを発行した。
- ③検証用公開システムに登録するデータは、データ提供機関から利用許諾をいただいていることを前提とした。ただし、公開にあたっての公開基準は、原則として次のとおりとした。
 - ア 権利者からの許諾範囲内の公開であっても,第三者の権利を侵害する恐れがある もの,公開に不適切と判断したものは公開しない。
 - イ 権利者又は第三者より公開に関する異議があった際は、速やかに削除等の対応を 行う。

6. 提供データの利用について

各機関から提供されたデータを「スポーツ・デジタルアーカイブ」としてデータ連携を可能とするために、以下のようにデータを整備し、一部データの記述内容の統一化をはかった。

①スポーツ共通メタ項目の設定

各機関のメタデータを横断検索可能とするために、「スポーツ共通メタ項目」を設定した。(表7参照)

- ②連携のためのメタデータ整備について 各機関のメタデータを「スポーツ共通メタ項目」に割り当てた。
- ③一部メタデータの記述内容の統一化

データ連携による活用の利便性をさらに高めるため、以下の項目でメタデータの記述 ルールを設定した。対象項目:「年月日」および「大会名」。

- ・「年月日」項目から「西暦年のみ」切り出す
- ・「大会名」は、オリンピック・パラリンピックのみ共有テーブル対応
- ④提供画像データの取り扱い

提供いただいた画像データに「クレジット」を入れて検証用公開システムで表示。 クレジットの表示内容は「提供機関名/スポーツ・デジタルアーカイブ」とした。 また、検索結果に表示させるサムネイル画像を作成した。

7. サイトの画面遷移について

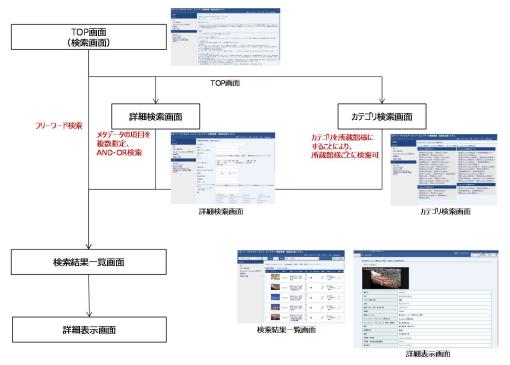


図8【画面遷移図】

8. 検索機能について

①詳細検索

共通の目録情報検討用に詳細項目を設定し、各項目別の検索機能を実装した。

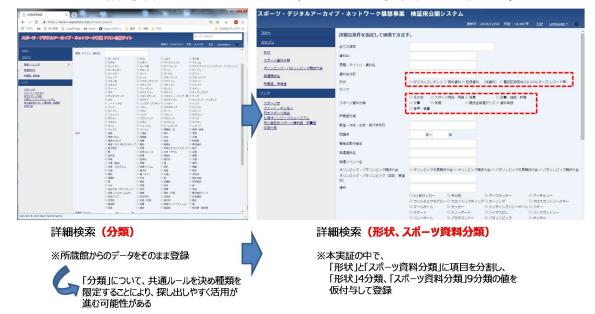


図9【詳細検索画面】

②カテゴリ検索

データモデルの検討用にカテゴリ別の検索機能を実装した。



図 10【カテゴリ検索画面①】



図11【カテゴリ検索画面②】

9. 検索結果

①検索結果一覧



図 12【検索結果一覧画面】

②詳細表示



図13【詳細表示画面】

VII スポーツ資料の利活用に向けたアンケート

1. 目的

本事業で構築した検証用公開システムを利用していただき、スポーツ資料の利活用に関する意見を頂くことで、今後の公開システム構築に向けた設計方針に反映させる。

2. 対象者

検証用公開システムの閲覧権限ユーザに対してアンケートの協力を依頼した。

表 14【検証用公開システム閲覧権限ユーザ】

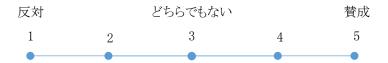
	本事業への関与			D関 <i>5</i>			閲覧	権限		
No.	会議構成者	オブザー バー	提供機関	調査先	その他	組織名	担当部門	担当者名	権限付与	調査対象
1	0					スポーツ庁	オリンピック・パラリンピック課		0	
2	0					筑波大学	図書館情報メディア研究科 教授	杉本 重雄	0	0
3	0					龍村法律事務所	弁護士	龍村 全	0	0
4	0					国士舘大学	体育学部こどもスポーツ教育学科 教授	田原 淳子	0	0
5	0					筑波大学	体育系 助教	成瀬 和弥	0	0
6	0		0			独立行政法人 日本スポーツ振興センター	秩父宮記念スポーツ博物館	新名 佐知子	0	0
7	0					公益財団法人 日本サッカー協会	管理部 部長	西澤 和剛	0	0
8	0		0			株式会社フォート・キシモト	顧問	松原 茂章	0	0
9	0		0			中京大学	スポーツ科学部 スポーツ教育学科 教授	來田 享子	0	0
10	0					東京大学	大学院 情報学環 教授	渡邉 英徳	0	0
11		0				東京都	オリンピック・パラリンピック準備局 計画推進部 調整課	高橋 恭子	0	0
12		0				東京オリンピック・パラリンピック 競技大会組織委員会	国際局 国際渉外部 IKM計画課	千葉麻由子	0	0
13		0				東京都	総務局総務部 東京都公文書館	大橋 秀治	0	0
14		0	0			公益財団法人 日本スポーツ協会	総務部	金谷 英信	0	0
15		0				国立国会図書館	電子情報部	木藤 淳子	0	0
16		0				公益財団法人 野球殿堂博物館	事業部	茅根 拓	0	0
17		0				独立行政法人 日本スポーツ振興センター	総務部総務課	三澤 亮太	0	0
18		0				公益財団法人 日本オリンピック委員会(JOC)	OM推進部 日本オリンピックミュージアム準備室	下湯 直樹	0	0
19		0				公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会	企画情報部	井田 朋宏	0	0
20			0			札幌オリンピックミュージアム		白取 史之	0	0

※敬称略

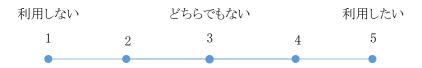
3. アンケート内容

質問項目を12項目設定した。質問内容は下記の通り。

1. スポーツ資料情報の公開に賛成ですか?



2. このようなスポーツ資料情報が恒常的に公開された場合, 利用したいと思いますか?



2-1. 利用したい場合, どのような用途に利用したいか, 当てはまるものがあれば○ をしてください。(複数回答可)

選択項目以外に、利用する目的がありましたら、その内容をご記入ください。

スポーツ教育 · 啓発事業 · CSR 活動 · 競技力向上 · 地域振興 · 産業振興



- 2-2. 利用したいと回答いただいた方へ質問です。どのような情報が公開されれば役立つとお考えですか。
 - ①例えば,大会名(国外,国外)や年代,使用者,競技名,雑誌名等, 具体的に記載ください。

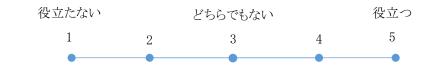
希望する 情報	
情報	希望する
	情報

_	また,資料画像(イメージデータ)がなく,資料の目録情報のみでも役立つ
,	と考えますか。
資料情報 の必要性	
2-3. 利	用しないとお考えの場合,その理由をご記入ください。
利用不可 理由 (任意)	
	ツ関連資料と検証システムについて なたの印象に残った資料を教えてください。(複数回答可)
3-2. 求	める資料が探せましたか? 探せなかった ・ 一部のみ探せた ・ 探せた
がこ	のように探しましたか。また,今後,役立つと考える「検索手法」のご希望 あれば,ご記入ください。例えば,キーワード検索,具体的項目名(ex:人名) よる検索,カテゴリによる絞込み,組合せや新技術による検索等。
検索方法と 今後の希望	

3-4. 共有化できれば検索する際に役立つと思われる項目に丸をつけてください。 この他にあればその他に記載ください。

競技名 · 人名 · 団体組織名 · イベント名 · 施設名 · 形状 · スポーツ分類 · その他 (

4. 目録データとともに、詳細を記した外部情報(wikipedia 等)の URL が公開される ことは、利用者にとって役立つと考えますか。○を記入のうえ、その理由について ご意見を記載ください。

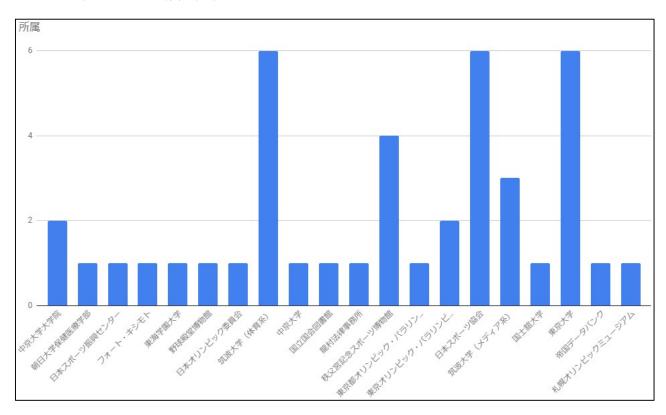




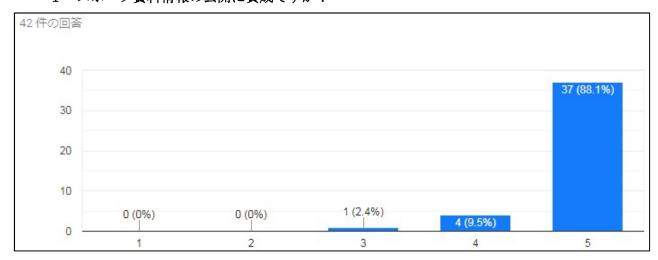
5. ご意見・ご要望がございましたら、ご記入ください。(任意)

4. アンケート結果

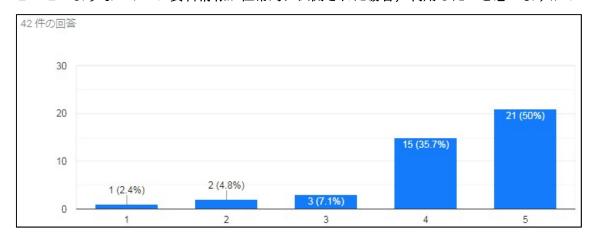
●回答いただいた機関名等



1 スポーツ資料情報の公開に賛成ですか?

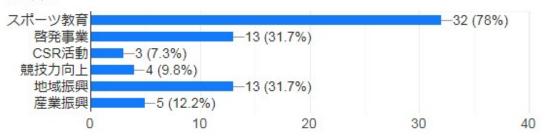


2 このようなスポーツ資料情報が恒常的に公開された場合,利用したいと思いますか?



2-2 利用したい場合、どのような用途に利用したいか、当てはまるものがあれば〇をしてください。

41 件の回答



その他回答

- 1 研究活動、図書館(学内)での展示会
- 2 過去の式典の様子について、過去の大会会場の様子について
- 3 研究活動
- 4 図書館における調査支援業務への活用
- 5 エンターテインメントとして。話題作り、その裏づけ調査など。
- 6 博物館相互間での資料の借用、自館の広報宣伝活動
- 7 利用者サービス(博物館、図書館のレファレンスサービスのための所蔵状況調査)
- 8 東京2020大会、1964年大会の資料を中心に、開催都市である東京の歴史のひとこまとして、調査研究の対象になると考える。
- 「スポーツ教育」が何を範囲するかは分からないが、スポーツ史の調査研究のため、スポーツ文化の理解を深めるためのツールとして普及を望む。 9 スポーツ文化の理解とはすなわち、スポーツをスポーツたらしめるものは何かを考えることであり、スポーツの意義や役割について知ることであると 考える。こうした行為が広く一般に普及するということはスポーツの未来にとって非常に重要なことだと思う。
- 10 文献調査、文献研究
- 11 調査、研究
- 12 自組織の広報活動や事業の方向性の参考などに利用する
- 日本スポーツ協会をはじめとするスポーツ団体等が、過去のオリンピック等のスポーツイベントに対して、どのような情報を書籍・雑誌等で発信してき 13 たのか閲覧するため。スポーツ界における過去の動向を正確にレビューできることは、過去の取組を内省するとともに、今後の取組に活かす素材になると考えられる。
- 14 調査研究
- 15 研究活動(論文、スポーツ関連本の執筆など)
- 16 アーカイブ教育 コンテンツ制作における文献調査の対象として
- 17 メディアアートなどのコンテンツ作成
- 18 スポーツには普段直接接しないので、イベントやニュースがあったときでしょうか
- 19 研究資料や歴史考証、地理考証
- 20 エンターテイメントコンテンツ
- 21 スポーツ施設や、館の間での資料の貸し借りなど、どのような資料を保有しているかを確認するため。

- 2-2 利用したいと回答いただいた方へ質問です。どのような情報が公開されれば役立 つとお考えですか。
 - ①例えば、大会名(国外、国外)や年代、使用者、競技名、雑誌名等、具体的に 記載ください。
- 1 女子ラグビー
- その資料との関係がある資料の同時提示、例えば類似する競技の資料や同時期の資料
- 3 大会名、文書名、年代、史料名、筆者、使用者名
- 4 ・各大会の報告書等
- 5 アーカイブズの保管先、その内容、利用方法
- 6 発行物の著者・発行年月日・目次、用具等の競技名・使用時期・大きさ・重さ
- 企画展示での貸借を想定した場合、以下の2方面からの情報が役立つと考えられる。
- ①大会名や年代、使用者、競技名等の、展示コンセプトの検討に必要な情報 ②資料の材質、寸法等の、展示において物理的に必要な情報
- その他にも、製作者も有用な情報になると思われる。
- 8 資料の所在地や閲覧の可否
- 9 スポーツ資料の使用用途、年代、使用者
- 10 五輪や国体等、継続的に実施されている大会の網羅的情報。ネットや文献で探しにくい古い年代の情報も非常に有益だと思います。
- 11 大会名、年代、競技名、人名
 - ・人物名、年代
 - ・公開されている資料が、貸し出し可能な状況なのかなど使用状況がわかる
- ・本物なのかレプリカなのかの情報
- ・サムネール以上の解像度のある画像を提供できるかどうかの情報
- ・資料解説(資料に関するエピソード)
- 13 情報については、大会名(国外、国外)や年代、使用者、競技名の公開を希望する
- 大会名、年代は必須。
- 選手などが実際に使用したものか否かの情報
- 15 大会名。実物資料について、本物か複製かの別
- 16 固有名詞化されている分野で、 大会名(国体など)、競技名、競技者名、競技場名、
- 17 │・スポーツの歴史が分かるような資料。特に、明治~昭和初期の体育教育や、スポーツの取り組みが分かるようなもの。
- 18 大会名、年代、会場、団体名、選手等氏名、競技名、雑誌名、会議名、記録、順位、発行者名、出版社名、著者名、発行年、キーワード
- 19 大会名、競技名、選手情報、記録、順位、統計データ等
- 20 事象名、大会名称、西暦及び元号記載の当該年、主催者名称、元資料の属性;プログラム、報告書、雑誌又は新聞記事、年鑑、年史、書籍名、写真帳、個人記録等、加えて書籍、報告書の場合は著者名全員、編集者氏名、共同研究者の全員氏名及び監修者氏名
- 21 発行者名、出版社名、著者名、発行年、キーワード その他:過去の組織委員会やスポーツ団体の理事会・評議員会の報告資料
- 22 記録資料の場合は、正確な内容を把握するために可能な限り全文を公開していただきたい。
- 23 競技団体等の内部会議資料(理事会議事録など)
- 時代を問わず、世界レベル(オリンピック、アジア大会、各競技の世界大会など)、国内レベル(国体、各競技の全国大会、インカレやイン 24 ターハイと言った学校の全国大会など)の全記録及びパンフレットや要項、競技規則。特に、競技記録と規則が分かると良い。近代以降に発 行されたすべてのスポーツ・体育・武道関連雑誌の情報。
- 25 大会名、開催地、年代、使用者、競技名、概要、権利情報
- 26 競技会場,関連ニュース,所蔵物に関する内容の説明
- 27 大会名、所蔵館、資料の内容に関する情報
- 資料の内容を表す情報が不足しているようにお見受けしますので、そうした情報が公開されると役立つと考えます。本質問項目の「(例えば、~)」に挙げられているも 28 のはもちろんのこと、それに加えて資料の概要説明や既存のメタデータ項目にとらわれない一般的な主題が付加されていると有用です
- 29 選手の顔写真など人に関する情報、大会記録などの大会に関する情報、芝の種類や土地による特性など場所に関する情報、当時の大会記録と更新年月日
- 30 オリンピック大会、パラリンピック大会、日本選手権大会、多様な年代(古いものも含めて)
- 31 競技名、選手名、イベント名
- | 32 |オリンピックのようなメジャーな競技だけではなく,マイナーな競技も含めたい。
- 33 大会名や年代
- 34 場所、競技種目など
- 35 関連資料、資料の説明文や解説、経緯や時代背景など
- 36 |保有している施設名、大会名、年代、使用者、競技名(種目も含めて)、書籍は出版年、著者、当時の定価など。
- 37 競技名、選手名、イベント名

②また、資料画像(イメージデータ)がなく、資料の目録情報のみでも役立つと考えますか。

- 1 役立つ
- 2 役立つ。ただし、見出しだけでなく詳細な情報が一覧で見えることを希望する。一つずつクリックして詳細が表示されるブラウザと、最初から詳細が表示されているブラウザと 2 つ用意してくださるとありがたい。
- 3 │はい、役立つと考えます。目録情報があれば、所蔵先に問い合わせることができます
- 4 どの様な資料が存在し、どこに保管されているか、ページ数等の詳細があれば役立つと思います。
- 5 なるべく画像があったほうが良い
- 6 │もちろんあったほうがありがたいが、目録情報のみであっても、その資料の存在がわかることだけでも意味があると思います。
- 7 目録情報のみでも有用だが、資料画像のあることが望ましい。
- 8 イメージデータが必要と考える
- 9 資料画像が見たい
- 10 役立つと考えます。
- 11 役立つ
- 12 画像がないと厳しい。
- 13 サムネイルだけでもあった方が、内容の特定が格段にしやすくなる。イメージデータは入手不可もしくは権利上公開不可等の場合以 外は必須である。
- 14 目録情報のみだと、データベースの価値が半減する。
- 15 段階的整備を前提として、初期段階では目録情報のみでもよいと思う
- 16 | 役立つと考えますが、その場合、形状の欄の記載が重要になってくると思います。(実物なのか、写真なのか) できたら、イメージデータがあったほうが検索しやすいですが、博物館の負担が大きいので、そことのバランスかと思います。
- 詳細情報がどのくらい充実しているか。サムネイルがあっても、詳細情報、由緒がなければ、ネット上に転がっている出所不明の情
- 17 報とあまり変わらないかもしれない。 詳細があれば、当該資料にイメージがなくても、類似資料で補足されるであろう。
- 18 文字情報と実物のイメージが合致するとは限らないので、資料画像は可能な限りあったほうがいいと思う。
- 19 目録情報だけでも役立つと思われる。
- 20 だのような資料かイメージしやすいため、資料画像があることが望ましいが、少なくとも資料の目録情報があれば、検索性は十分保たれると思われる。
- 21 その資料がどこにあるのかわかるだけでも有益と思われる。
- 22 書籍、雑誌、その他の紙媒体資料の閲覧目的ならば画像は無くても利用するに値すると考える、その種の資料利用の場合は目録頁の全記載は有効だと考える。
- 23 資料画像があった方が望ましい。
- 24 イメージデータある方が良いが、何が、どこに、どのような状態であるかがわかれば、目録情報のみでも十分に役立つと考える。
- 25 役に立つと考える。
- 26 <mark>役立つと思う。目録情報の掲載を優先し、所蔵先を書くことによって当面は見たい人が直接その期間に問い合わせて参照すればよいと思う。将来的に、データベースの構築が一定数出来て、余裕が出来たら順次画像を追加していけばよいと思う。</mark>
- 27 | 役立たない
- 役に立つと考える。しかし、現状の目録情報のみではサムネイルがない場合どんな内容のものなのかが具体的にわからないものが多いため記述項目を増やすべきだと 考える。
- 29 役立つと思うが、あったほうがいい
- 30 現状では資料の内容に関する情報の多くを画像に頼っているようにお見受けし、不十分だと考えます。
- 21 役に立つが資料画像がない場合は用途が限定されると考えられる。
- 1 | 資料画像のない目録はフィルターをかけられるようにしてほしい。
- 32 実際にその資料へのアクセスが可能であれば、役立つ。
- 33 ネット上にある関連情報(イメージ)を探すキーが得られればよいのではないでしょうか
- 34 イメージは必要。
- 35 いいえ
- 36 データベース化されている点は役立つと考えます。一方で、画像にリンクされていると、様子が詳細に伝わると感じました。
- 37 はい。しかしフィルタリング機能などが必要であると思う。
- 38 できれば画像がある方が良いと思います(文書等の場合、写真は不要)。

2-3 利用しないとお考えの場合、その理由をご記入ください。

・資料名だけだと実際の資料を想像しにくく、利用しづらい。

3-1 あなたの印象に残った資料を教えてください。

1 特になし 2 過去のオリンピック大会の写真 3 ・1964年の東京オリンピックの資料 4 当館(野球殿堂博物館)以外の所蔵する、野球に関する資料 5 クラマー氏の写真、聖火リレー関連資料 6 グルノーブルオリンピック・ノルディック日本選手及び関係者の寄せ書き 7 1940年ごろのスケート靴 8 競技、選手の写真 9 短時間の検証で、「印象に残るもの」にはたどり着けなかった。 10 各館の中で最古の資料を調べたくて、「製造・制作・出版・発行年」の項目で検索したところ、「1850年~」の資料が最も古いことがわかった。 具体的には札幌オリンピックミュージアムのスキー板(ID:A001036)と秩父宮の体育競技の賞状(ID:E020854)であることがわかったのは興味深い。 11 1940年の資料 12 戦前のオリンピック大会の資料 ・便箋1枚 日体協 東京 1924.4.9 パリ大会予選参加了承の件 アマチュア資格問題か ·嘉納治五郎氏直筆入名刺 ・写真会食風景岸清一が見えるが不明。裏書:電通写真部 13 - ラ昊 云良風京 F-月一かれんのかいか。衣音・电四寸兵中 ・新築工事(17) (関係者から説明をきく岸首相。首相の左川崎秀二代議士・田畑政治アジア競技大会組織委員会事務総長・稲田文部事務次官・浅野組織委員会協議局 長—32.2.15.) |・Jリーグ_サッカー_Jリーグ開幕。挨拶する川淵三郎チェアマン 14 【日本体育協会スポーツ科学研究報告】スポーツ選手のATに関する研究 一第4報 競歩選手のLT-15 過去のオリンピック関連資料 16 日本スポーツ協会の医・科学研究報告 17 札幌オリンピック組織委員会議事録 18 1948年ロンドンオリンピック大会記録資料 19 特になし 20 スキー靴、軍隊用スキー 21 競技会関連グッズ 22 五輪や国体のプログラム、選手のユニフォーム 23 ストックホルムオリンピックのポスター 24 https://www.i-repository.net/il/cont/01/G0000482000001/000/375/000375011.jpg 25 フェアプレイが示された映像資料 26 第18回オリンピック競技大会(東京)_陸上競技_マラソン・ヒートリー(銀メダル)と円谷幸吉(銅メダル) 27 特になし 28 特にない

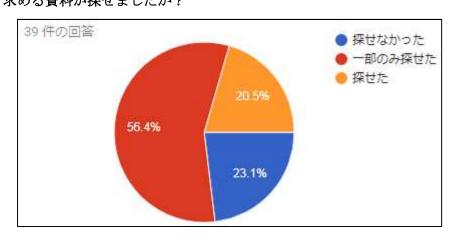
3-2 求める資料が探せましたか?

32 検索でヒットするのが当館所蔵の資料が多く、既に知っている資料なので、特に印象には残りませんでした。

29 パラリンピックでの卓球の試合の写真

30 オリンピックのメダル

31 ペレ

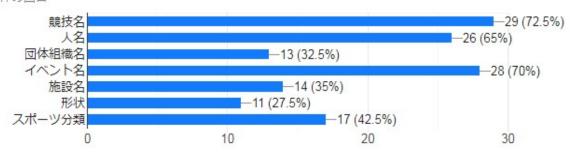


3-3 どのように探しましたか。また、今後、役立つと考える「検索手法」のご希望が あれば、ご記入ください。

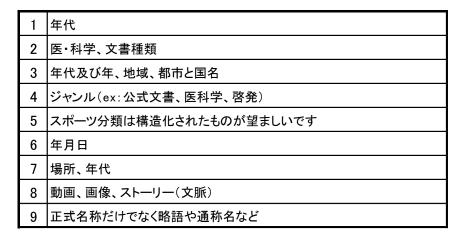
- 1 キーワード検索
- 資料形態によるカテゴリ検索
- 「形状」と「スポーツ資料分類」がそれぞれ樹形図のように表示されたり、これらの組み合わせから検索できるようになること
- 年代別の検索
 - ・アマゾンでよくあるこれを検索した人は、他にもこれを検索していますといった関連する機能の追加
- 5 キーワード検索、カテゴリによる絞り込み検索
- 6 キーワード検索や、年代ごとの検索、所蔵している館を指定してのキーワード検索
- 8 人名、キーワード検索
- 「すべての項目」での、キーワード検索がよい。 「関連イベント名」、「サイズ」、関連選手名など一つ一つの項目に分かれているが、凡例がないのでどのような言葉を入れて検索すればよいか、わからない。
- 資料に関する簡単な説明がないと、資料名だけで資料自体の中身を特定できない。例えば、ID: B000001の「スキー人形」は、何の目的で作られている資料なのかの説 明がないと理解が難しい
- 10 √「第~回××大会」などと明示されているが、年代の項目には情報がない場合があった。大会名がわかるのであれば年代は特定できるので、年代の項目をいれてほしい。 ・詳細検索画面の「関連競技面」「関連競技名(種目)」の配列法は工夫が必要ダル。例えば50音順など。 ・詳細検索画面の入力欄に資料IDの項目は必要ない。
- 「すべての項目」で、「メダル」を検索すると、オリンピック大会の金銀銅メダル(いわゆる選手に授与されるもの)がなかなか上がってこなかった。例えば、札幌オリンピックミューシ 7ムの「八木弘和選手のスキー」(A001260)がヒットするが、これは「備考」に「銀【メダル】を受賞した時の使用品」とあるのでヒットしている。また、選手に授与される金銀銅 メダルではなく、一般に配布された記念の金銀メダル(A010020)もヒットして、なかなか求める資料にたどり着かなかった。 一般の記念品と、選手などに関わる資料との区別を何とかつけられないか。
- 12 「表題・タイトル・資料名」での検索で探した
- たとえば、札幌オリンピック競技大会の、選手に授与されたメダルの実物があるか検索しようとしても、「札幌 オリンピック メダル」で検索すると、札幌オリンピックミュージ 13 アムと言う博物館名称で検索されてしまうので、たとえば資料名について検索できるとか、また、記念メダルがほとんどであるので、「記念」という文字が入っているものを除 く、とかできると良い。
- 14 返上された第12回東京オリンピック資料について調べたかったが、検索ボックスに1940と入れることで、いくつか資料が挙がった
- 検索ワード入力と、カテゴリからの検索の両方を試した。
- あいまい検索もできると便利だと思う。
- 16 キーワード検索、項目名による検索
- ワードや具体的項目名による検索機能が充実すると良い
- 18 関連するキーワードを複数and検索を行った
 - 検索した語句:
 - ① 体育スポーツ施設 (該当なし)
- ② スポーツ施設 (3件該当した、札幌2件、秩父宮記念1件)
 - ③ 指定管理者制度 (該当なし)
 - ④ 地域スポーツクラブ(4件該当、いずれも本会資料)
- キーワード類推機能や、同じキーワードで探した人が用いた他のキーワードのサジェスチョン機能があるとよいかもしれない(「オリンピック」と「開会式」がよく検索されている というサジェスチョンをする機能など)。
- 22 現状のままで良いと思う。単に、自分が求めていた関連資料がまだ入力されていないだけだと思う。
- 23 競技と資料の形状による絞り込み
- 検索手法として、スポーツ分類はプレーンテキストで入力させるのではなくプルダウンメニュー等でユーザー負荷を減らすべきだと考える。また、年代や所蔵館などの項目で 24 ソートして検索結果を得られると目的の項目が探しやすくなると考える。
- 25 キーワード検索(大会名、競技名)、関連競技名による検索
- 26 「金栗四三」「嘉納治五郎」で検索した。メタデータを利用したファセット検索やフィルタリング機能があれば有用だと思います。
- 「競技名(サッカー) && 大会名(ワールドカップ・WC)」
- WCと検索したときにワールドカップのクエリを含む資料に関して検索できるようにしてほしい。
- たまたま映像教材から見つけることができた。YouTubeで探すこともある。 検索手法は、キーワード検索、人名、大会名、年号
- 29 類似画像検索
- 30 検索窓だけでは奥に入っていこうとしない
- 31 可視化することが望ましい。
- 一つの資料に対して、事実情報に加えて、客観と主観の両方を文脈として保存し、検索できるアーカイブ
- 34 どういった資料が収録されているのか、使用前に把握できると、調べ方を想像できる。
- 35 キーワード検索
- 入力欄を1つではなく、3つくらいに増やすのが良いと思います。
- 36 | 例えば、「札幌オリンピック」「スキージャンプ」「大倉山」などのように、求めるキーワードをいくつか入力することで、細かく絞り込むことが可能になります。 検索欄が1つだと、モノによってはヒットする資料数が多すぎるため、絞るのが大変です。

3-4 共有化できれば検索する際に役立つと思われる項目に丸をつけてください。

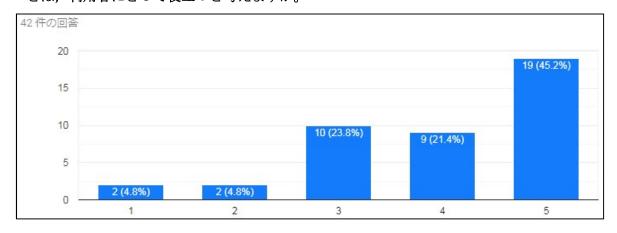
40 件の回答



その他回答



4 目録データとともに、詳細を記した外部情報(wikipedia 等)の URL が公開されることは、利用者にとって役立つと考えますか。



上記回答についてご意見を記載ください。

- wikiは情報が正確でないとの指摘もあるが、概要を掴む上ではとても有効なツールである。学生が利用することも考慮すれば、とても役立つと考えられる。
- 2 リンク先は、IOC、JOC、JOAなどの公的機関のサイトに絞るべきだと考えます。リンク先のページで、資料に対する適切な解説が述べられていなければ、間違った情報や説明不足の情報が検索者に届く可能性があるためです。
- 3 1次情報を補足する上で外部情報は有効
- 4 外部情報との連携は有用だが、wikipediaのような必ずしも信憑性が高いとは言えないURLの付記は、誤った情報を伝達するリスクを 伴うため、慎重に判断すべき。
- 5 より深い検索ができる
- 6 情報をたどって知識を深める・広めることができるから。wikipediaは、興味を持つ人なら直接見に行くでしょうから、非専門家には探しにくい外部情報を案内できればなお有益と考えます。
- 例えばウィキペディアの場合、「編集合戦」で不正確な情報が示される場合がしばしばである。その場合、検証用のサイトへのリンフも併記する必要があるが、そのために有効なサイトは存在するか?(両論併記ができなければ、利用者をデタラメな情報に導くことになりかねない。
- 、 Wikipediaの情報は真偽の問題があるので、課題はあるが、
- ╸│基本情報を知る方法としては、よいと思う。もっと信頼のある典拠情報がほしいところ。
- 9 詳細URLという項目を設けるよりも、共有化された固有名詞に対して、外部情報とリンクされる方が間違いないし、登録者の負担が 少ない。また参照URLはJOCや日体協など、日本のスポーツオーソリティ団体とリンクするのが良いと考える
- 10 あれば役に立つと思うが、必要であれば自らネットで検索すると思う。
- 外部情報の信ぴょう性について、どのURLを選択するか検討の余地はあるが、
- '┃プラスアルファの情報があることは良いと思われる。
- wikipedia等の情報は、信憑性に欠ける場合があるものの、関連情報を得る上では役立つものと思われる。なお、wikipedia以外にも、12 ある民間企業が作成しているページが含まれているが(ex.資料ID: E002640)、何故そのページを選んだのか、一定の基準をもって選定する必要はあるように思う。
- 13 他の詳細情報の正確性は担保できないため。
- 14 Wikipediaとのリンクは、検索情報の補足となる情報の収集につながるため重要。なお、wikipediaが不特定多数の編集によるもので、 正確性に欠けた情報があるといったシステム上の課題についてもサイト上に記載しておくことが必要と思われる。
- 15 外部情報は役に立つが、信頼できる出典に基づいて内容が記述されているものに限られるべき。
- 16 資料の典拠の参考になるから
- 17 現状の目録情報で欠けている、所蔵品の歴史的経緯といった内容に関する情報を簡単に得ることができる。
- 18 | 資料の背景や、内容についての情報を収集できるから。
- 外部情報とのリンキングは大変有用ですが、現状の検証用公開システムでは資料とリンクされた外部情報の関係が明示されておらず、外部情報の位置 19 付けがわからないため参考になりません。外部情報がリンクされているメタデータ項目を明示したり、せめてWikipediaの記事タイトルを表示したりするな ど、外部情報が何についての情報なのか資料の詳細画面で明示すべきです。
 - https://www.i-repository.net/il/cont/01/G0000482000001/000/375/000375062.jpg
- 例えば上に示すような画像の場合、メキシコのどこで行われたのか・どのような試合であったのかなどを知ることは有意義であると考える。ただし「第15回パラリンピック競技大会(リオデジャネイロ)」ウィルチェアラグビー」ウィルチェアラグビー。日本対アメリカ。池崎大輔」を検証用公開システムで検索した結果20に付与されているWikipediaにはウィルチェアラグビーの概要が示してあり、大会についての記述ではない。どのような関連を目録データに付与するかということも検討したうえで外部情報のURLなどは記載するべきであると考えられる。
 - また、データベースの使用方法として「FIFAワールドカップ1970メキシコ大会」の画像を探すために利用する方が自然であるとも思われる。そのような場合はWikipediaの参照を想定していないため無駄な情報を付与することになってしまう。
- 21 目的とした資料だけでなく、関連情報もわかるので、便利である。
- 22 ネット上での資料探しは、芋づる式のことも多くあるため
- 23 利用者の感心のベクトルは様々なのでネットに広くリンクした方がよいと思うから
- 24 多くの人はwikipediaからアクセスできます。
- 25 資料に含まれる歴史性をどう紐づけていくかが課題のため、まずWikipediaだけでも良いかと思います。
- 26 深く知ろうとした際に情報へたどりつくルートを提示するべきだと考えるため
- 27 データベースに記載されていない情報を補うことができるから
- 28 最初からWikipediaで調べた方が早い上に、知りたいことを詳細に直接取得できるので、わざわざこちらのページに戻る必要がないと感じてしまう。
- 29 | 当館がWikipediaの情報を公認しておすすめしている、と思われる可能性があるため。

5 ご意見・ご要望がございましたら、ご記入ください。

- 1 とても素晴らしい試みだと思います。このシステムをぜひ研究で利用したいと思いました。頑張ってください。
- 2 公開にあたっての諸権利クリア、利用にあたっての有償/無償の別などをはっきりさせる。

図書の資料情報の「場所」に資料名が記載されているものが見られました。また項目の「生産者」という言葉に違和感を覚えますし、項目が何を指しているのかがわかりづらいと感じました。

- 3 | 絞り込み検索の際に、項目によってはどのようなキーワードを入力したらよいのかわからないものがあります。例えばサイズや形状などです。キーワード入力ではなく、サイズの範囲の選択や形状の項目の選択ができれば意味があると思います。
- 全体的には、使用者が直感的に操作することが難しいところがある。例:検索結果のページ表示、絞り込み検索を押さないと出てこない検 | 索窓等。

また、検索項目の細分化(キーワード検索のみならず、年代、大会名、人名など)があれば、なお良い。

- を表結果が複数のページにわたる場合、現在、上のパナーでスクロールして、次ページに移るように仕組みであるが、これを画面上に数字(1,2,3・・・)で表示していただくと、より便利になると思う。
- ・サムネイルがあるレコードだけ、最初にフィルターをかけられるような機能があるとよい。
- 6 ・形状、資料名など項目分けした検索よりも、グーグルの検索エンジンのように、入力のゆれが認識してもらえるような、全文検索が便利だと思う。
- 資料分類「9. その他」は、サムネイルがないと物が推定できないデータが多くみられた(例えばNo.95~179あたりは紙資料又は写真ではないかという印象を受けた)。できうる限りサムネイルは充実させた方がよいと感じた。

トップページの検索項目の使い方がわからない。

例えば、「資料ID」の項目は、何を入れればよいのかなど。

- メジャーな物品名だと、検索で大量にヒットするけれども、自分が探している属性のものが多くて埋もれてしまうと感じました。 8 3-3でも記載したが、もう少し条件を、項目ごとに絞って検索できるようにしていただけると、埋もれなくていいかもしれないと思いました。
- 9 │スポーツ資料分類は、さまざまなカテゴリーの所蔵館で共通認識を持つことは難しいであろうと思いました。
- 10 TOPページの検索ワード入力部分のすぐ近くに詳細検索のアイコンを置くべきだと思う。
- 11 はこのような検索サイトがあるとスポーツ情報を利用することの頻度が多くなり、スポーツへの関わり方として「知る」「研究する」など、 増えていくのではないかと感じた。
- 13 検索条件の「形状」という言葉が分かりづらい。代替案:ジャンル、など。
- 14 記録資料の場合は、正確な内容を把握するために可能な限りweb上で全文を公開していただきたい。

|そもそも現時点で登録されている資料に限りがあるため、現在の使い勝手(探したいものが探せたかなど)の質問は、人によっては回答しづ |らい問であると思われる。

- 15 また、本データベースへの資料登録は誰が行うのかが決まっているのか疑問に感じた。例えば、大学が参加しているが、大学の所蔵資料を 誰がデータベースへ登録するのかということである。
 - さらに、大学の所蔵資料とは具体的にどのような資料を指すのかも気になった。大学所有のものに限られるのか、研究者個人の所有資料も 含むのかなど。
- データベースの作成については大いに賛成します。当然、著作権や肖像権といった各種権利に配慮する必要がありますが、可能なものはで は、きるだけ公開すべきだと思います。
- 16 問題としては、所蔵機関に情報の入力を任せるということで、各機関によって対応に差があるのかなと思います。可能であれば、目録の作成をはじめとするデータベース化を行うための資金を、国等が各種機関・団体に提供して行えれば良いのかなと思います。
- 検索窓は検索結果一覧画面でも表示した方が、操作の負担が減ると考える。また似た様なリソースは集約して表示などを行うことで目的の資料までたどり着きやすくなると思 17 う。
- また、WikipediaのURLはURLデュードした方がどんな記事へのリンクがされている方が分かりやすいと考える。
- 18 資料を検索するに当たって、画像がある方が便利であると思う。

このデータベース自体ではなかなか用途を考えることが難しいように感じました。そこで外部のユーザが典拠的に利用できる情報資源としての機能が必要です。 Web APIを公開したら第三者のユーザがこのデータベースのコンテンツを利用して別のサービス開発やキュレーションを実現してくれる可能性が生まれます。 また、Wikipediaのヘリンクをデータベース内部で持つだけでなく、Wikipediaの関連する記事ページを編集し、データベース中の関連する資料のリンクや記述を積極的に追加していくことでデータベースの利用者も増えるのではないでしょうか。

- 20 検索後の画面に検索窓が無く、絞り込みや別の検索を行う時に手間が掛かってしまう。
- 形状やスポーツ資料分類の欄の表示に出ている数字に意味はあるのかよくわかりませんでした。
- 21 | 文字コード順に並ぶようなので、大会の番号順に見ようと思っても、第2回大会より第10回大会が前に来てしまうのはつかいにくいです。
- 22 インターフェースはもっと興味をひくものであったほうがよいのではないか
- 23 映像の情報があるけれど、映像コンテンツの内容が見れないのが残念です。

キーワード検索の結果から次の関連ワードが想像できるような検索アルゴリズムやUIの設計がされると、キーワード検索のみでも関連を拾って検索の幅を広げられ ると思う。 レコメンド機能など。

24 前のページやトップページへの戻り方が分かりづらい。

検索キーワードや検索方法を変えたいときにすぐに変えられない。

25 システム自体のトラブルか私のPC自体の問題なのかが不明ですが、フリーワードの入力欄に当初アルファベットしか入力できず、ひらがなの変換ができませんでした。そのため、内容確認に時間がかかってしまいました。

第4章:「スポーツ・デジタルアーカイブの構築・共有・活用 ガイドライン」の作成に関する検討会議の実施

スポーツに関する歴史的に価値のある貴重資料の散逸・劣化を防ぐための整理・保存について、さらには情報を共有・活用することを目的としたスポーツ・デジタルアーカイブ 構築に向けた「スポーツ・デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」の作成 に関する有識者会議及びワーキンググループ会議(WG) を運営した。

I 会議における主な検討事項

1. 有識者会議

- ・「スポーツ・デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」の検討
- ・「検証用公開システム」構築についての検討
- ・ 利活用についての検討

2. ワーキンググループ会議

- ・「スポーツ・デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」の詳細検討
- ・「検証用公開システム」構築および共通メタデータの検討
- ・利活用についての検討

Ⅱ 構成

1. 有識者会議

スポーツ系資料の収集・整理,データ作成,システム構築に携わった経験保有者や,スポーツ系資料に限らず様々な資料のデジタルアーカイブの知見を有する有識者(計 9 名)で構成することとした。

杉本 重雄 筑波大学 図書館情報メディア研究科 教授

龍村 全 龍村法律事務所 弁護士

田原 淳子 国士舘大学 体育学部こどもスポーツ教育学科 教授

成瀬 和弥 筑波大学 体育系 助教

新名佐知子 独立行政法人日本スポーツ振興センター秩父宮記念スポーツ博物館・図

書館

西澤 和剛 公益財団法人 日本サッカー協会 管理部 部長

松原 茂章 株式会社フォート・キシモト 顧問

來田 享子 中京大学 スポーツ科学部スポーツ教育学科 教授

渡邉 英徳 東京大学大学院 情報学環 教授

2. ワーキンググループ会議

有識者会議委員の中から、分類・整理、権利処理、利活用等のそれぞれのテーマに詳しい有識者(計5名)を選定し、構成することとした。

杉本 重雄 筑波大学 図書館情報メディア研究科 教授

成瀬 和弥 筑波大学 体育系 助教

新名佐知子 独立行政法人日本スポーツ振興センター秩父宮記念スポーツ博物館・図

書館

來田 享子 中京大学 スポーツ科学部スポーツ教育学科 教授

渡邉 英徳 東京大学大学院 情報学環 教授

Ⅲ スケジュール

有識者会議は3回開催、WGは4回開催した。

第1回有識者会議 平成30年 8月10日実施

第2回有識者会議 平成30年12月18日実施

第3回有識者会議 平成31年 3月 8日実施

第1回WG 平成30年 7月 10日実施

第2回WG 平成30年10月 3日実施

第3回WG 平成30年11月13日実施

第4回WG 平成31年 2月 6日実施